

ラインの館

ラインの館は、1915年にJ. R. ドレウェルのために建てられた、細心の注意を払って保存されている2階建ての木造住宅です。主屋と付属棟がL字型に接続されており、神戸の異人館様式の洋風住宅の優れた例と考えられています。現在ラインの館は北野異人館地域とそこにある歴史的建造物の保存活動のための情報センターとして機能しています。この家の注目すべきデザインの特徴には、対になった角柱のある南向きのポーチとその上のガラス張りのベランダ、東西の側面にある装飾的な詳細が施された出窓、木製のルーバー式のドアと窓のシャッターなどがあります。西洋風の木製の歯型装飾のある軒蛇腹の上に、灰色の釉薬をかけた日本瓦の屋根が乗っており、外壁は厚い木製の下見板で作られていて、装飾的な彫り込み線が施されています。これらの特徴の多くは、1880年代という早い時期から神戸の洋風住宅の特徴となり、数十年後まで人気が続きました。

神戸市は、ラインの館を1980年に伝統的建造物に、2016年に景観形成重要建築物に指定しました。2017年から、この家は完全に解体され再組み立てされ、耐震構造の改良が加えられました。また、すべての壁、床、天井、備品、装飾的な成形物が元の状態に復元されました。家は2019年に再び開館しました。主屋の1階には元々応接室、居間、食堂が含まれていましたが、2階は寝室でした。現在、2階は家の歴史と神戸の外国人居留地

（北野町・山本通り重要伝統的建造物群保存地区を含む）についての情報展示に充てられています。展示には、1995年の阪神・淡路大震災で受けた被害の修復や、最近の解体・再建プロセスについての説明も含まれています。

神戸市は1978年にこの家を購入し、「ラインの館」という名前は市民の意見を取り入れて選ばれました。この家の最後の非日本人居住者は、1968年まで住んでいたオーバーラインというドイツ人でした。「ライン」という名前は、彼の母国ドイツへの敬意を表すとともに、外装の下見板の強い直線的な特徴から来る言葉遊びでもありました；「Rhine」と「Line（線）」は日本語では同じ発音になります。ラインの館は、神戸の異人館の中で唯一入場料が無料の施設です。